

会社の概要

商号	東洋合成工業株式会社
本店所在地	千葉県市川市上妙典1603番地
本社及び営業部門	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階
設立	昭和29年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員	587名
事業内容	感光性材料、電子表示機器の材料などの開発・製造・販売 電池材料、電気二重層材料などの研究開発・製造・販売 感光性樹脂の研究開発、応用品の製造・販売 化学機械・装置の設計・製作・設置工事 上記物品の輸出・輸入及び倉庫業
事業所	市川工場、千葉工場、香料工場、淡路工場、高浜油槽所、感光材研究所、西日本営業所

役員

(平成30年6月23日現在)

代表取締役社長	木村 有仁	常勤監査役	森 寧
常務取締役	出来 彰	監査役	宮崎 誠**
取締役	渡辺 宏一		越山 滋雄**
	宮澤 貴士		
	平澤 聡美		*社外取締役
	渡瀬 夏生		**社外監査役
	鳥井 宗朝*		

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日 中間配当を実施するときは9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、 予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.toyogosei.co.jp/ir/epn.html ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 株式の諸手続き	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。 特別口座をご利用の株主様は、みずほ証券株式会社およびみずほ信託銀行株式会社 0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

東洋合成工業株式会社

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
ヒューリック浅草橋ビル8階
TEL 03-5822-6170 FAX 03-5822-6189
E-mail : ir@toyogosei.co.jp



第68回定時株主総会決議ご通知

当社第68回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されました。

報告事項

第68期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)事業報告及び計算書類の内容報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 取締役7名選任の件**
本件は、原案のとおり承認可決され、取締役に木村有仁、出来彰、渡辺宏一、宮澤貴士、平澤聡美、渡瀬夏生、鳥井宗朝*の7名が選任され、それぞれ就任いたしました。
*社外取締役
- 第2号議案 補欠監査役1名選任の件**
本件は、原案のとおり承認可決され、補欠監査役に萩原正一が選任されました。
- 第3号議案 役員賞与支給の件**
本件は、原案のとおり、当事業年度末時点の取締役6名(うち社外取締役1名)及び監査役3名(うち社外監査役2名)に対し、当事業年度の業績等を勘案して、役員賞与総額32,054千円を支給することとし、各取締役及び各監査役に対する金額は、取締役にについては取締役会に、監査役については監査役の協議に一任することで承認可決されました。



第68期 報告書

平成29年4月1日 ▶ 平成30年3月31日



業績ハイライト

■決算概要

- ・売上高は、積極的な販売拡大により大幅増収
- ・営業利益・経常利益は、売上の増加に伴い増益
- ・当期純利益は、遊休資産の売却もあり増益

当期は、半導体、ディスプレイ、香料の各市場が堅調に推移しました。積極的な販売拡大、新製品の開発、コスト削減に取り組んだ結果、売上高は前期比+12.9%の20,536百万円となりました。利益面は、販売拡大により増益となり、営業利益は同146.8%増加の1,300百万円、経常利益は同164.2%増加の1,089百万円、当期純利益は同270.0%増加の863百万円となりました。

		前期比
売上高	20,536百万円	+12.9%
営業利益	1,300百万円	+146.8%
経常利益	1,089百万円	+164.2%
当期純利益	863百万円	+270.0%

■当期のポイント

- POINT 1** 半導体を中心とした需要の増大に伴い大幅増収、過去最高売上高を更新
- POINT 2** 感光性材料セグメントは、旧世代向け・先端半導体向けレジスト材料、ディスプレイ向け感光性材料で販売が拡大
- POINT 3** 化成品セグメントは、電子材料向け高純度合成溶剤製品、香料分野製品の販売が堅調に推移し、増収増益

業績概要 *2014年度より非連結開示となっております。



トップメッセージ



代表取締役社長

木村 有仁

当期の振返り

当期の事業環境は、米国では経済が良好に推移し、欧州・日本は緩やかな回復が続きました。当社製品の需要につながる半導体市場では、旧世代から先端の分野まで需要が拡大を続け、ディスプレイ市場は高解像度化から需要拡大が続いています。また香料市場でも、引き続き需要が堅調に拡大したことから感光性材料セグメント、化粧品セグメント共に販売が拡大しました。これらにより売上高は大幅に増収となり、過去最高を更新し、20,536百万円(前期比+2,353百万円、+12.9%)となりました。また利益面においても、売上拡大に加え、期前半を中心に為替が円安傾向で推移したことなどにより増益となり、営業利益は1,300百万円(前期比+773百万円、2.5倍)、経常利益は1,089百万円(前期比+676百万円、2.6倍)、当期純利益は863百万円(前期比+629百万円、3.7倍)となりました。

中期的な方向性と当期の取り組み

現在、情報・通信技術の進化と様々な電子デバイスの普及により、人々の生活が大きく変わり、より高い利便性を求める動きは世界的に加速しています。このような社会的な要請に対して、当社は先進的な製品・サービスの開発を通して、社会、人類文明に貢献し、事業成長を実現していきたいと考えています。

当社の大きな需要先となる、電子材料関連の市場では、スマートフォン、ビッグデータ、IoT、AIなどの進化によりデータ量の大幅な増加、データ通信高速化・大容量化によるメモリー需要の増加など、市場の拡大が続いています。また、今後に向けて、次世代通信インフラの整備、電気自動車、自動運転などの開発も進められています。このような情報利用の高度化に向け、半導体の高性能化が求められ、そのための材料として高品質・高純度の機能性化学品の需要が大きく拡大しています。

これらの需要増に対応するため、当期は感光性材料セグメントにおいて、感光材ならびに周辺材料の製造設備の増強を行い、2018年4月に増強工事が完了しました。今後の本格稼働に向けて、量産準備、お客

様による製品認証、製造人員の教育などを進めていきます。

また当期は設備の増強に加え、①マーケティング・研究開発機能の強化、②生産技術・品質管理の高度化、③優秀な人材の確保と生産性向上を引き続き進めてきました。これらの取り組みにより、事業の拡大と同時に生産性の向上を図り、収益拡大につなげ、企業価値を上げることで株主共同の利益を向上させていきたいと考えています。

組織能力向上に向けた取り組みの一つに「マーケティング・研究開発機能の強化」を挙げましたが、当社は、創業以来「当社の生命線は研究開発力にある」という理念のもと、独創的な視点を大切に研究開発を進めています。また、確かな技術力と市場ニーズを見据えた迅速な対応により、有機合成、分離精製、プラントエンジニアリング、化成品物流ターミナルと事業分野を着実に拡大し、発展してきました。今後も、新領域の開拓に力を入れ、マーケットで望まれる製品を開発することを重視しながら、新規事業の創出に向けた研究開発活動を推進していきます。

株主還元への考え方

株主の皆さまへの還元につきましては、安定配当の維持を基本としつつ、安定的な経営基盤を確保しながら、業績、配当性向、内部留保などを総合的に勘案して決定しています。これらの方針を踏まえ、当期の配当は、期初の計画通り1株当たり年間10円とさせていただきます。今後も、事業の拡大と財務体質の改善とのバランスを勘案しつつ、株主の皆さまへの還元を行っていききたいと考えています。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月

木村 有仁

セグメント情報

感光性材料セグメント

業績の概況



半導体向け感光性材料は、IoTによる電子デバイス使用量の大幅増加、データ通信量増大によるDRAMおよびフラッシュメモリーの3次元化によるレジスト需要等により、旧世代向け、先端半導体向けレジスト材料の販売が共に拡大しました。ディスプレイ向け感光性材料は、OLED向けがやや軟調となりましたが、LCD向けは、引き続き高需要となり、販売は増加しました。

以上の結果、売上高は11,328百万円(前期比+1,607百万円、+16.5%)、営業利益は1,275百万円(前期比+659百万円、+106.9%)となりました。

化成品セグメント

業績の概況



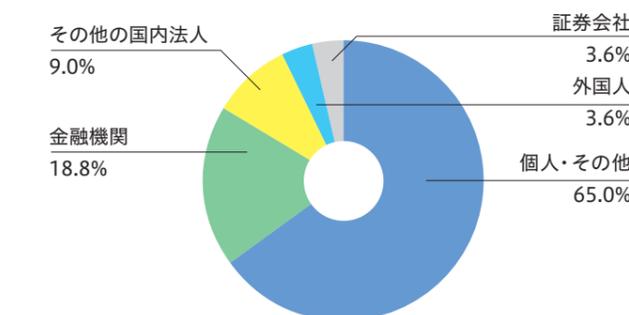
化成品部門は、情報処理向けの半導体メモリー分野や、スマートフォン・電気自動車向け部材といった成長率の高い領域において、電子材料向け高純度合成溶剤製品の販売が堅調に推移しました。また、香料分野では、海外の大手香料メーカー向け販売が増加しました。ロジスティック部門は、顧客満足度向上に努めた結果、タンク契約率、回転率共に高水準で推移しました。

以上の結果、売上高は9,208百万円(前期比+746百万円、+8.8%)、営業利益は24百万円(前期比+114百万円)となりました。

株式の状況

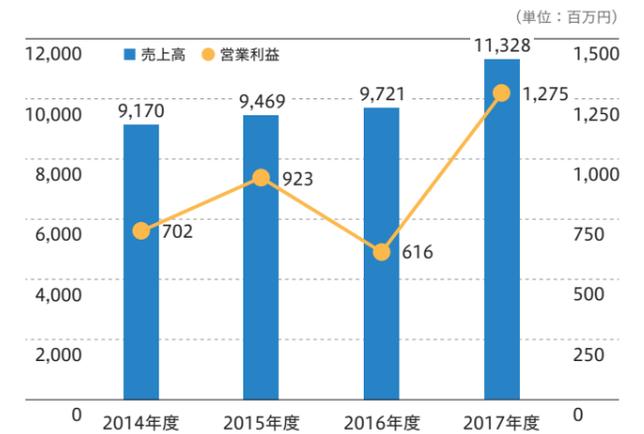
発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	6,260名

株式の分布状況

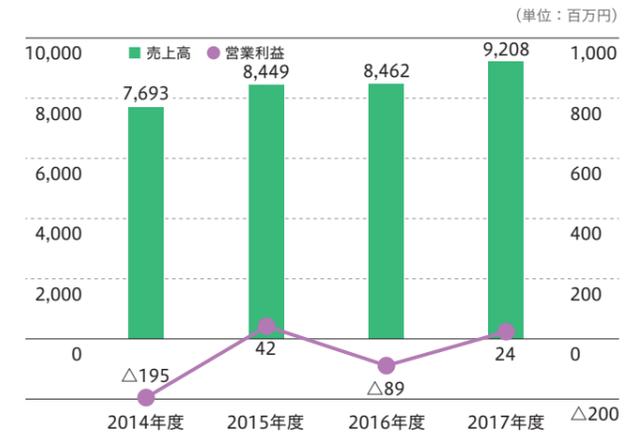


*自己株式を除く単元未満数を含む

売上高および営業利益の推移



売上高および営業利益の推移



大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
木村 有仁	1,094	13.8
木村 愛理	583	7.3
株式会社千葉銀行	298	3.8
株式会社きらぼし銀行	298	3.8
木村 正輝	278	3.5
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	248	3.1
株式会社 TG ホールディング	200	2.5
公益財団法人東洋合成記念財団	200	2.5
日本マスタートラスト信託銀行早稲田大学・管理信託口	200	2.5
日本マスタートラスト信託銀行 (信託口)	149	1.9

当社は、自己株式を206千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式(206千株)を除外して計算しております。